

# 親子セミナー「ファミリーコンサート」



4月22日、ゆめあるて大ホールにて



第687号  
発行人●豊丘村公民館 館長 原 国人  
編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会  
0265-35-9066  
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村  
(5月1日現在 ※外国人を含む)  
男 3,354人  
女 3,388人  
総人口 6,742人  
世帯数 2,146戸



元プロ野球選手から打撃の指導を受ける

五月十三日(日)に豊丘村民体育館にて、第二十四回アイワウス全国少年少女野球教室を開催し、飯田下伊那十三チーム二百五十二名の少年野球クラブの

者の方に向けに審判講習会や

## 5月13日 豊丘村民体育館 全国少年少女野球教室開催



野球教室に参加した豊丘少年野球クラブ

五月十三日(日)に豊丘村民体育館にて、第二十四回アイワウス全国少年少女野球教室を開催し、飯田下伊那十三チーム二百五十二名の少年野球クラブの者の方に向けに審判講習会や

皆さんが集まりました。この全国少年少女野球教室は、日本プロ野球OBクラブが主催で、全国四十七都道府県で同時開催される野球教室であり、今回の長野県会場として豊丘村で開催いたしました。日本プロ野球OBクラブから八名の講師をお招きし、ボールの投げ方、受け方といった野球の基本を、丁寧に教えていただきました。また、保護者の方向けに審判講習会や

## 夢のような時間 ファミリーコンサート

平成三十年度第一回公民館親子セミナー「ファミリーコンサート」とよおか。普段はテレビで見ているような場面が、この豊丘村で。歌って遊んで華やかなひと時を、約六十組百五十名の親子が楽しみました。

**家族で楽しめたコンサート**  
柿外土 宮下翔子

四月二十二日にゆめあるてで行われたファミリーコンサートを家族で鑑賞しました。元『にっこごぶん』の体操のおにいさんの小嶋信之さんと元NHK『まちかどドレミ』のうたのおねえさんの岡野綾さんの明るい掛け合いに一気に惹き込まれ始まったコンサート。我が子と一緒に普段テレビで耳にする歌や、私自身が子どもの頃によく歌った歌、お馴染みのテレビアニメの主題歌などバラエティーに富

**日曜日のひんぎ**  
伴野原 林 多恵

四歳の娘の第一声は、「夢だったのかな」でした。コンサート中に、まるでテレビから抜けだしてきたような美声で笑顔が素敵な歌のお姉さん。パワフルで楽しい体操のお兄さん。娘にとって本当にキラキラした夢のような時間を過ごさせて頂きました。一歳半の次女も慣れない状況で固まりつつもホール中、子供の時から手へと弾む大きな大きな風船を、一生懸命に目で追いかけて、夢中で楽しんでいました。あつという間の二時間。鑑賞した誰もが温かい気持ちになれる、そんなコンサートだったと思います。素敵な時間をありがとうございました。



新しいゴミ焼却施設が桐林から下久堅の稲葉クリーンセンターになって、燃やすゴミの内容が変更されて半年以上が経過した。以前はプラやビニール類はリサイクルのため分別したが、全てが燃やせるわけではない、洗っても汚れが落ちないものは燃やすことができると言うのだが、男である自分にとって分別することの面倒なことは考えが少し変わってきた。今では汚れないプラなどは再利用の袋に分別するが、洗うのが大変なものなどポイと燃やすゴミ袋の中に、この時ほんとうに申し訳ないと思いつながらである。

段丘

(宮下正弘)



# リニアの声

## 第21回

北市場二

黒田 美佳

名古屋で二十数年、東京で四年過ごし、豊丘村へと移り住んだ私にとって、東京まで四十分、名古屋まで二十分。この文字を初めて目にした時、心がワクワクしたのを思い出します。

「この地域は、いろんな可能性を秘めている」

人々が東京や名古屋に働きたり、学びに行ったりできる。同時に、リニアから出る電磁波の問題への影響、残土処理問題、河川への影響などを問う文字も見かけます。知識のない私にとっては、どうなんだろうかと思いつつ、記事に目を通して情報を得ています。

私は、普段から意識して

いることに、陰と陽という東洋思想があります。太極が万物の根源であり、ここから陰陽の二元が生まれる。表裏、昼夜、明暗、緩急など、物事が生じるとき、必ず両面が出ます。リニアについても前向きな声があれば、後ろ向きな声もある。だから、私自身としては、どちらか一方に賛同し、もう片方を批判する

とよおかマルシェの事業がうまくいくか心配でした。オープン期間は自分の想像以上に大勢の人で賑わっていました。一過性のものではない事を願っています。建物も洒落ているし、入り口となる道路のスクランブル交差点も良いと思います。食堂や屋根下の今後の活用を楽しみにしています。

（後 七十代 女性）

遠方の利用者だけでなく、近場の人にも利用してほしいと思うが、本当にこんな所まで人が来るのか疑問に思う。集客の為に、ここでしか食べられないおいしいデザート、食べ歩きできるものがあるのでしょうか。

（河野 十代 女性）

豊丘村に道の駅ができる。聞いたときには、どんなテナントが入るのか楽しみでした。オープン後、行きましたが、外観はモダンでスタイリッシュだと思いました。櫛のベンチは良かったのですが、もう少し外に座るところが欲しいです。また、東屋やヤマボウシといった広葉樹の木かげがあるといいと思いました。子どもの遊具もあるといいですね。オープンしたばかりなので多くの人に来てほしいですが、今後スパー以外で人が呼べるか心配です。

（伊那市 四十代 女性）

豊丘マルシェではおいしい物が食べられるのかなと期待しています。建物がきれいでいいですね。駐車場も二重ラインで幅が広がったのでいいです。パルムの利用の際に道の駅の利用者で駐車場があまり混まなければ良いと思います。

（長沢 四十代 女性）

松川町生田の北宮家で、十人きょうだいの六番目、四男として生まれた。一町歩余りを有する農地で、特に養蚕を主としていた。と京に出て働き夜間中学に通った。時は戦中であり、学徒動員、軍需工場動員、本土決戦に備えて竹ヤリの訓練が行われていた。戦争は益々激しくなる。昭和十八年に赤紙により召集され、板橋中隊へ入隊、高射砲隊として国土防衛の任に就く。米軍のB29爆撃機の襲撃が激しくなるが、高射砲は高度一万mには届かず無念の涙

# シリーズ「元氣な高齢者」④ 農業に回帰し貫いた大志

木下喜臣さん

九十四歳

北市場二在住



とで自然に足腰が鍛えられ、健康のために役立ったと、今になつてつくづく思う。十五歳の時、叔父の勧めで東京に出て働き夜間中学に通った。時は戦中であり、学徒動員、軍需工場動員、本土決戦に備えて竹ヤリの訓練が行われていた。戦争は益々激しくなる。昭和十八年に赤紙により召集され、板橋中隊へ入隊、高射砲隊として国土防衛の任に就く。米軍のB29爆撃機の襲撃が激しくなるが、高射砲は高度一万mには届かず無念の涙

を流すことが出来なかった。内地の召集兵が教育され、南方の戦場に送られたが、誰一人帰らず無念の極みであった。やがて二十年八月に終戦となり復員した。死して靖国に祀られることしか考えていなかった。将来の夢もなく家に帰り、空しい思いで農業を手伝っていたが、兄弟が次々に帰って来て元気を取り戻す。

縁があつて二十五年に、生田村農協へ就職した。二十五年頃からは有線放送電話が普及し全国的に広がりました。農協主体で推進された。喜臣さんはここに関わった。豊丘村でも河野と神稲の合併と共に建設委員会が作られ検討されていた。村から呼ばれて建設

委員に協力することになった。生田村農協には都合八年間勤めた。その頃、木下家への婿入り話が決まり、三姉妹の次女、寿さんと結婚、喜臣さん三十三歳であった。建設事業は、業者指名から外部工事、建柱から各戸に引き込む電線工事、内部はアナウンサー採用・教育へと進み、工事完了と共に独立して有線放送電話農協が設立された。当時は村内の電話機台数二十台ほどであったのが、全戸加入を果たし伊那谷の夜明けと称された。思い出は、一に建設過程で建柱の穴掘りに、部落割当られ官役で行われ、加入者の協力があつたこと、二に電話交換が最初は音声呼び出し、「何番さん」「何番さん」と呼んだことで昨日のことのように蘇る。こうして農協に二十三年間を勤め五十七歳で定年退職した。

皆さんのお陰と感謝していたが、二十一年前に亡くなったのは残念である。現役当時は仕事一筋であったが、退職後はブームとなっていたゲートボールを楽しんだ。またその傍らで、民生委員を六期勤め、この間、昭和六十一年に長野県老人大学に、平成二年には長野県地域活動指導者養成講座を卒業し、地域高齢者活動に協力した。また現在では回数が減ったが、自宅裏で畑仕事にも勤しんでいる。

省みるに波瀾万丈で忙しい人生であったが、年を重ねると共に心身の衰えを感じ得ない。現在は娘夫婦家族との四人暮らしで、健康器具を購入する等、健康と食生活に留意し精一杯暮らす毎日である。

文責 桐崎 長一

# シェオープン

## 「南信州とよおかマルシェ」 たちに聞いてみました。

行って見たが、レストランが外から丸みえで食事をしていく。地の物がメニューとして出るのだろうか。村

平成の始めの頃、貯木場であった所に豊丘村として大型店のパルムができた。食品を始め様々な商品が備



電気自動車の充電スタンド

# 公民館登録グループ活動紹介 第10回

## 花のある暮らし

イハナクラブ 吉川靖子

家の中に花のある暮らしってステキだと思います。自分も手軽に花を飾るようになりたいと常々思っていました。そんな時、公民館でアレンジフラワーをやるから一緒に習わないか、と友人から誘われて参加するようになって三回目に入りました。

月一回のレッスンではなかなか上達しません。未だに先生がされるのを見て、周りの人も見て、どうにか形になります。でも、ひと時花に集中して、一時間ほどがあつという間に楽しく作品をみんなで見賞し合う

時、同じ器に同じ花材なのにどれ一つとして同じ作品にならないのが驚きです。も感心させられます。

普通に花瓶にスポンと入る花と違って、アレンジフラワーにする華やかに



自分庭に花を育てて、その花をきれいにいられるようになれたらいいな、と

思っています。



# とよおかマル

## 4月27日にオープンした道の駅 についての声を、訪れた人

た。パンを食べたがとても美味しかった。豊丘にこのような施設ができたことは、近隣としても嬉しい。是非成功して欲しい。また来たい。  
**(飯田市 七十代 女性)**

もともと豊丘産の肉は美味しいので時々パルムに来ている。これから来るつもり。肉以外にも安く美味いものを揃えて欲しい。  
**(喬木村 三十代 女性)**

野菜を出荷したいと思っっているが、売り切れる心配。リピーターになってもらえるか不安がある。  
**(河野 五十代 女性)**

大きな建物ができている。行ってみたいと思う。レストランで食事したいと思っ

ていて、楽しみたい。  
**(村外在住村内勤務 四十代 女性)**

新しい施設ができるのは嬉しい。だが、展望台は目の前のアカシヤ林しか見えないのではないのか。マルシェ前の竜東一貫道の舗装が新しくなったのは良い。信号がついたので、渋滞が



新しく「とよおかマルシェ」の信号を設置

生しそうだ。特に右折の矢印信号が必要ではないか。  
**(神稲 二十代 男性)**

村民の休憩所として、いろいろな人と交流する場になればいいと思う。

雇用が生まれて一時的には地域が活性化するだろうが、県道沿いの既存の商店とバランスを取り「道の駅ひとり勝ち」にならないようにしてほしい。

広い農地がなくなったのはさみしい。  
**(壬生浜西 五十代 女性)**

「とよおかマルシェ」という大きな施設を維持管理していくだけのもうけを出さなければならぬ。村が関わる「だいち」は赤字だが「とよおかマルシェ」は補助金を当てにしないでやっていけるような民間の感覚が必要だ。

# 平成30年度 公民館役職員紹介

よろしくお願ひします

- 公民館長** 原 国人  
**社会教育係長兼公民館主事** 原 みほ子  
**公民館主事** 牧野内良幸
- 図書館司書** 関口 京子  
松尾こずゑ
- 社会教育委員**  
貝原 豪 寺澤 愛子  
武田 篤子 筒井 伸治  
牛越 雅紀(中学校長)
- 公民館運営審議会委員**  
前沢 義恵(一分館)  
林 恵美子(二分館)  
鹿野 寛(三分館)  
丸山 隆(四分館)  
田島 亨(五分館)  
北澤とみ子(六分館)  
三石 和志(七分館)  
牛越 雅紀(小中学校)  
木下 浩一(PTA)  
貝原 豪(社教委)  
塩澤 俊雄(JA)  
北澤 貢(区長会)  
北林美はる(女団連)
- 編集委員**  
原 高之(商工会)  
林 清光(勤労協)
- 男女共同参画推進委員**  
堀本 明一 中原美穂子  
森田 正純 片桐 真澄  
松村さより
- スポーツ推進委員**  
酒井 浩文 中原美穂子  
酒井 泰尚 田島 紀子
- 分館長**  
竹村 浩一(一分館)  
川西 浩一(二分館)  
北澤 義和(三分館)
- 又スポーツ推進委員**  
菅沼美佐子(四分館)  
久保田美智代(五分館)  
三島 拓(六分館)  
木下 幹夫(七分館)
- 図書部**  
松村 友里(一分館)  
中原 淳(二分館)  
原 恵(三分館)  
菅沼美佐子(四分館)  
久保田美智代(五分館)  
三島 拓(六分館)  
木下 幹夫(七分館)
- 図書司書**  
藤沢萌々香 吉田 裕
- 原 明美**
- 酒井 浩文(四分館)**  
小椋 司(五分館)  
小池 光好(六分館)  
宮下 弘幸(七分館)
- 神谷 公彦(一分館)**  
松下 勝幸(二分館)  
酒井 章弘(三分館)  
仲村 謙二(四分館)  
林 達也(五分館)  
唐沢 伸彦(六分館)  
壬生 雅穂(七分館)
- 小澤 孝光(一分館)**  
北澤 貴幸(二分館)  
前野 健太(三分館)  
下平 賢治(四分館)  
三澤 学(五分館)  
三島 大和(六分館)  
高田 浩紀(七分館)
- 本館社会部**  
部長 菅沼 秀夫  
副部長 堀本 明一  
副部長 松澤 令子  
越野 清司  
小池 光好  
前出美智子  
片桐 達司

# こちら資料館 ①84

## 昔の足温器

写真は、伴野の原悦子さん(故・原嘉彦先生の奥さん)から先月寄贈いただいた

た「足温器」です。家を整理していたら出てきたとのこと。五、六個もあって壊そうとしていたところ、ちょうど訪ねてきた友人に「珍しいから」と止められたそうです。状態の一番いいものをお持ちいただきました。

全体が焼き物でできていて、しっかりとしています。中に灰が入っています。そこに才キを入れて蓋をし、足をのせて温めたものと思



われませす。実際、イスに座つて足を入れてみると、両足がかかと部分を残してうまく収まります。

いつ頃のものかわかりませんが、悦子さんは嫁がれて五〇年余、使った記憶がないそうです。見るのも初めてのことです。嘉彦先生のお姉さんや弟さんにも聞いてくださいました。やはり覚えがないそうです。

右から「ポッター」と書かれていてことから戦前のものかもしれませぬ。また、英語をもじった名前から、自由な空気があつた大正時代も想定されます。

いずれにしても、今まで資料館にはなかった珍しい民具を寄贈いただきました。「一見の価値あり」です。  
**(資料館主任 唐澤武彦)**

# とよおか100年前

『豊丘村民話集』より

**文蔵屋敷の妖怪**  
武田 樽人

明治二十年頃のことです。長沢の木下文蔵さんが起人となり、大河原・堀越

河野・田村のひとびとを糾合して唐松峠の開発を企て、長野県へ願つて許可を受け、道路の開削をいたし、人馬の往來の弁をはかり、物資の交流は一段と盛んになりました。同時に峠を一寸下りた「こもどい」頭の平場へ問屋を開設して、通信、物資の輸送の取次、交換をはじめました。かねて

万馬を往來した剛の者と言われたさすがの文蔵さでさえ、心胆を寒からしめたことがたくさんありました。冬の夜などは山の犬がいくつも出て来て恐ろしい声で吠え、家のまわりをぐるぐる回り、夏の月夜は狐や狸、むじなが縁の下へ入り込むという状態です。

ある臘月の晩でした。峠を越えて下りて来た女の旅人が一夜の宿を乞うたので、文蔵さんはたいそう気の毒がり、招き入れて熱いお茶などをすすめました。旅人は夕食のおかずには油あげの煮つけがいいと言いました。それはいいと言いつと、大皿いっぱい盛り上げてご馳走しました。旅人は油あげを見るとたちまち目の色ががやき、一口食べて大きく口はだんだん裂けて大きくなりチラチラと白い歯が見えます。食べ終わるころ手足の様子がおかしくなり、毛があらわれ、しっぽが見えました。女はたちまち一皿ペロリと平らげてしまいました。

それ以来、山の犬とか、狐、むじななどが襲来しても家へ近寄ることができず、すぐ退散し枕を高く眠ることができたといひます。  
**(豊丘村民話集・第巻 昭和五十二年より) 文責 壬生雅穂**



～シリーズ～ **豊丘の自然**  
No.174  
ナラメリンゴフシ  
ナラメリンゴタマバチ（タマバチ科）



今年の主人公は、ちょっと複雑。写真で紹介したりんごそっくりな物体、どこかで、この時期、見かけたことがあると思う。実は、ナラメリンゴタマバチが作ったナラメリンゴフシ。

命名法がおもしろいので紹介する。「寄主植物名+形成される部分+形態的特徴+フシ(コブ)」で、命名するのだと言います。コナラの芽に、

最初に書いた複雑の意味、分かっていただけただろうか。ナラメリンゴフシと、その形成者のナラメリンゴタマバチの両方を紹介しなければいけないことが、(山田 栢

クマバチが何処からともなく飛び交う我が家の庭。小さいながらも藤棚があるのだが、今年は四月中旬頃よりびっしりと花芽が付いて、花芽摘み作業に汗を流したほど大変なのが藤だ。

院(八十八年建立)。この藤を管理していたのが藤保存会(商工会青年部)で、会員は二十名ほどが剪定や夏の水管理から春先の花芽を摘むなど、苦労して育てていたという。昭和二十三年に今の駐車場にあった藤を、現在の場所に移し始めたのが泉龍院の三色藤だが、丈を長くするよう阿島の花芽を芽接ぎして一・五メートルまでにもしたという。藤の下では花見の宴が催

平成15年ころの藤棚

平成三十年度、第四十八回夜間ソフトボール連盟の開会式が、四月二十七日ゆめあそびで行われました。今年には三チーム減の十六チームの参加で、五月から九月末頃までリーグ戦を実施します。

近年は仕事時間の変化や消防活動などで、選手集めが大変で各チーム苦慮していますが、ソフトボール好きな皆さんが和気藹々と試合を楽しんでいます。チーム数が少しづつ減少していますが、五十回大会が目前となっています。これ以上チームが減少しない

ようみなさん努力をして頂き大会を盛り上げて頂きたいと思えます。本年は役員の改選でもあり次の方達に御協力頂き運営をしていきますので、よろしく願います。

- (堀本明二)
- |     |       |
|-----|-------|
| 会長  | 中園 紘  |
| 副会長 | 宮坂 修次 |
| 事務局 | 堀本 明一 |
| 同次長 | 郷原 広達 |
| 同次長 | 福澤 雅也 |
| 会計  | 曾田 勝  |
| 監事  | 福澤 直也 |
| 監事  | 大原 秀隆 |

# ナイターソフト開会式

## 16チームの参加でリーグ戦



- 四月二十八日に、第二十八回長野県市町村対抗伝・第十四回市町村対抗小学生伝が松本平広域公園陸上競技場を発着点に開催され、豊丘村は、一般が五十五チーム中三十位(村の部五位)で、小学生が六十三チーム中五十六位でした。
- (二般)
- ①高本美咲②菅沼心太
  - ③山本蒼天④中山真樹
  - ⑤小野寺悠人⑥田島さくら
  - ⑦米山元章⑧原武司
  - ⑨松村健一
- (小学生)
- ①廣瀬乃亜②久保田成海
  - ③石原愛子④吉川依吹

### 長野県市町村対抗伝結果



### 俳句 短歌

ペイントの刷目くつきり花の冷  
雨音の春意ささやく閑居かな  
大空へ追慕の桜咲き満つる  
京疎水神宮めぐる花後  
道すがら水の流れるに春の音  
春風に背を押されゆく杖の道  
伊那訛り余韻にひたる離の里  
城趾池風に波打つ花後  
下明ゆる畑の広さをもてあます  
病床に握りしむるや春の雪  
百歳の叔母の葬列花吹雪  
安富桜異国語とびぬ人力車  
降園の児等の総身花吹雪  
日の音を聴くやたんばば花炎へて

磯部セツ子  
田中 静  
片桐 洋子  
森田 恵子  
三島 保子  
下平 玲子  
三島 里子  
木下 眞水  
松岡 照子  
宮下 公  
宮下 純子  
林 恵美子  
丸山 時子  
北原 昭子

### カマフラ片手に村内ラブラ。消え行く姿を悼む



されるなど売店も五平餅などを販売し賑わっていた。次第に会員数も少なくなり、十年ほど前に保存会も解散となってしまう。今では管理者も寺のみとなり、最盛期の勢いはなくなってしまう。管理して状態を保てば、村としての観光の目玉にもなるだろうと考えると、とても残念のひとつである。

### 三色の藤が彩り放つ 薫風五月の泉龍院

写真と文/宮下正弘

院(八十八年建立)。この藤を管理していたのが藤保存会(商工会青年部)で、会員は二十名ほどが剪定や夏の水管理から春先の花芽を摘むなど、苦労して育てていたという。昭和二十三年に今の駐車場にあった藤を、現在の場所に移し始めたのが泉龍院の三色藤だが、丈を長くするよう阿島の花芽を芽接ぎして一・五メートルまでにもしたという。藤の下では花見の宴が催

### 柳

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「祭」 吉川 燎 選

勇ましい祭りの花火盛りあがる 安田 喜子  
足腰も祭りばやしに浮かれたし 市沢 照子  
受け継がれ祭り囃しが活気づく 原 美風

軸吟…酒の意気祭り太鼓の乱れ打ち

▼課題「若」 互選

澁澁の言葉に似合う若者だ 吉川 燎  
若者に夢ある政治なせ出来ぬ 山本 義彦  
髪染めて若作りでも背が丸い 林 桃子  
若者のパワー地域を活気づけ 桃沢 健介

▼自由吟 桃沢健介 選

マスコミが作る世論に民の声 久保ひろし  
政治家の牙城野党は攻めあぐみ 福沢 勝美  
出不精に靴を履かせる花便り 西元 峯子

軸吟…官僚の虚言背後にボスの指示

〈短歌会 夢あるて〉

木曾三川水害多き輪中の地いま花咲きて人びと想う 大原真由美  
ベランダで母と眺めし紅椿今年も咲きてあの日懐かし 筒井 恵子  
早速に檻にかりし白鼻心おとりの母熟れて残れり 松尾ヒサコ  
「慎重に」病床のははは三度言ふ吾らに残し最後のことは 松下 泰見  
春來なば野の実乏しくなったらし策の干芋つつかれし跡 福澤貴美恵

〈あしたば短歌会〉

花桃に椿 水仙 岩つつじ夏日続きて庭を彩る 壬生 千春  
信号の向かいの女性青を待つバッグを肩に手にエゴ袋 大倉 知江  
かけ足で咲きし桜を愛でる間もなく雨風に散りし朝は 北澤 秀子  
明けてゆく庭にさゆらぐ春木立今日の命を立たしめて 毛涯百合子  
娘らに婿どの揃ひ夕映えの残波ビーチに泡盛を酌む 福澤 亀人